インスピタイムズ
下半期総集編

発行
尚志館高校
文責
安楽　宇都　竹吉
橋口　加治屋　木尾

創立五十周年　体育大会
どの学年も一歩も譲らず奮闘！

九月三日、令和三年度体育大会が行われた。今年も昨年と同様、新型コロナウイルス感染症予防のため、競技短縮やマスク着用の徹底のもと、無観客で開催された。また、応援に来られない保護者の方々のためにYou Tube Live配信が行われた。

大きな盛り上がりを見せる二年ぶりの応援団演武。

今年の体育祭の見所は『フォークダンス』。三年生がユニークな仮装で会場を盛り上げた。

優勝は二年生率いる青組！　団長の牧之瀬虎太郎さん（建工科）は「青組一人ひとりが各競技に一生懸命に取り組み、全力を尽くしたおかげで優勝することができました。青組応援団みんなで協力し、本番では今までで一番良い演舞を披露できたので大満足です。みんな！　俺についてきてくれてありがとう！」と優勝の喜びを語った。

惜しくも敗れた三年生だが、素晴らしい団結力と、三年間の絆の強さが発揮された最高の演舞で、体育祭は幕を閉じた。白組団長の眞戸原まりやさん（商業科）は「去年の体育大会は応援団演舞がカットされ、悔しい思いをしたため今年の応援団に立候補しました。女子で団長を務めることに不安もありましたが、白組のみんながついてきてくれて心強かったです。一人ひとりの個性を活かし、誰一人欠けることなく体育大会を終えることができ嬉しく思います。体育大会に携わった皆さん、ありがとうございました。」と感謝の言葉を述べた。

みんなが主役！！　個性あふれる文化祭に

十月十五日、令和三年度文化祭が開催された。今年も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、消毒やマスクの着用を徹底し、学年ごとに体育館に入り、教室からはオンラインで舞台を鑑賞するなど、さまざまな感染症対策が行われた。

書道部のパフォーマンスに始まり、各クラスの個性溢れるダンスや劇、個人の特技を活かしたダンスや楽器の演奏。そして軽音楽同好会の演奏など盛りだくさんの内容がステージで繰り広げられた。午後からは作品展示もあり、学校が様々な色に彩られた。中間考査明けの一週間という短い準備期間。大変だったからこそ、より一層思い出に残る文化祭となったのではないだろうか。

文化祭は新生徒会が発足し、初めての大きな行事。前生徒会のメンバーにも協力を頂きながら運営を行った。前生徒会長である三年生の柿本仁成さん（普通科）は「生徒会長を務めさせてもらったことは私の高校生活、人生においてとても大きな経験になりました。さまざまな行事を運営したり、それを通じてたくさんの友達を作ったりすることができました。大変でしたがとても楽しかったです。一年間本当にありがとうございました。」と語った。

特に三年生にとっては最後の文化祭。ダンスや展示も活気溢れるものとなっており、三年生の絆の強さ、熱い思いが感じられた。文化祭を通して、様々な人との交流も増え、仲間との絆もより深まった。また、先生方の違った一面を見られた。生徒・先生全員が有意義な一日となったのではないか。来年も、今年に負けない、さらにパワーアップした文化祭になることを願う。

建工科三年生の舞台発表。

見せつけろ！　クラスの絆

耐寒クラスマッチ開催

十二月二十三日、志布志運動公園で耐寒クラスマッチが行われた。コロナウイルス感染拡大の影響により縮小、更には中止となってしまった学校行事もあった中、三年生にとってほぼ最後の学校行事が無事に開催され、それぞれのチームが一丸となって優勝を目指した。対する一・二年生も三年生に懸命に食らいついた。

女子ドッジボールで優勝した商業科三年チームの山口莉奈さんは「私たちにとって最後の学校行事ということもありチーム内の雰囲気も良く、一致団結してみんなで勝つことができ、思い出に残る一日にすることができました。」と振り返る。

また、男子サッカーで、惜しくも準決勝で敗れた普通科三年チームの北拓武さんは「最後のクラスマッチで三位という結果を残せて良かったです。放課後や週末も全員で練習し、団結力を高めることができました。準決勝で負けてしまいましたが、いい思い出ができました。」と最後のクラスマッチへの思いを語った。

三年生にとっては団結力がより一層高まり、思い出に残る学校行事になったのではないだろうか。